

## ◎『新市史』「第7章戦争遺跡」に関わる

### 「呉海軍警備隊足摺探信所兵舎跡」の測量調査

11月30日(水)～12月1日(木)の2日間、標記の測量調査を元県立埋蔵文化財センター調査班長で市史編集委員の出原恵三さんと佐川町・越知町・香南市の文化財保護審議会審議委員で市史調査協力員の大原純一さんに来市いただき、標記調査を実施した。

これに伴い、市史編さん室職員2名もその補助にあたった。また、調査初日の11月30日(水)には土佐清水市郷土史同好会会長で市史編集委員(市政史担当)武藤清さんがボランティアで補助員として駆けつけてくださり、調査へご協力いただくことができた。

調査では、大原純一調査協力員は足摺岬山中「天狗山」に点在するレーダー基礎跡等の関連施設の測量と図面作成、出原恵三市史編集委員は各施設の撮影、武藤清市史編集委員と市史編さん室の2名は86名の兵隊が生活していた兵舎跡の除草や整備を行った。



↑兵舎跡のトイレ部分のコンクリート面の検出を行う出原恵三編集委員と田村

↑兵舎南面の石垣の土塁。竹を除き除草して土塁を浮かび上がらせた。



現在のように大便器、小便器はなかった。大便室はもちろん汲み取り式で、いわゆる「ボットン便所」です。満タンに糞尿が溜まると、畑等の堆肥として柄杓で汲み取って撒いていました。

小便は、現在のように個々に小便器は無く、広いスペースで用を足していました。プライバシー等まったくなかったと思います。

ちなみに、私の小学生低学年の頃、昭和40年代の木造校舎の学校は、この兵舎のような構造のトイレでした。



↑ 兵舎トイレのコンクリート床部分の草や樹木の張った根を剪定ハサミで切りながら取り除く様子。まるでじゅうたんを床から剥がしているような光景だ(左写真:吉本工心職員)。



↑ レーダー基礎周辺に落ちていた関係部品。



↑ 発電設備の基礎部分の遺構を写真撮影。

### 【編集後記】



左の写真は、12月1日の調査が終了し、天狗山から下山したとき、市役所へ帰庁途中の足摺岬地区切詰浜近くの市営駐車場から土佐湾側の海上を撮影したものです。

この日は、晴天で海霧もなく、遠く四万十町興津岬がクリアに見えました。

測量調査は、完全には終了できなかったため、12月末か、来年1月に再び行う予定です。時間はかかりますが、この手間を省いては納得できる『市史』内容記述は望めません。ここで踏ん張りたいと思います。(田村)